

河川整備基本方針における治水対策案の比較

ケース	治水対策案 (1/100)	事業費		移転 家屋数	用地補償	自然環境への影響	社会的影響	利水計画 への影響
		総事業費 (治水分)	うち洪水調 節施設					
1	サンルダム + 河道改修	億円 約5,400	億円 約370	戸 約90	ha 約480	・河道掘削が最も少なく、 河川環境への影響が最 小限に抑えられる。 ・サクラマス等の遡上性 魚類に対する配慮が必要。 ・新たに湖面が出現する。	・移転家屋や 用地買収が 少ない。	・正常流量や 共同事業者の 利水を確保で きる。
2	遊水地 (天塩川+名寄川) + 河道改修	億円 約6,000	億円 約1,000	戸 約270	ha 約1,600	・名寄川では河道掘削 が多く、河川環境に与え る影響が大きい。	・国道の付替 えなど社会基 盤の再整備が 必要。 ・遊水地内の 土地利用は 制限が生じる。	・正常流量や 共同事業者の 利水を確保で きない。
3	遊水地 (天塩川+名寄川) + 河道改修	億円 約5,900	億円 約870	戸 約260	ha 約1,300	・名寄川では河道掘削 が多く、河川環境に与え る影響が大きい。	・国道の付替 えなど社会基 盤の再整備が 必要。 ・遊水地内の 土地利用は 制限が生じる。	・正常流量や 共同事業者の 利水を確保で きない。

ケース1のサンルダムのB/Cは1.7である。

ケース2、3の遊水地については、サンルダムよりも下流に建設する洪水調節施設であるため、サンルダムよりも便益は少ないと考えられるが、仮に便益が同じとしても、事業費がサンルダムより大きいため、ケース2、3の遊水地のB/Cは上記サンルダムの約1/2程度である。